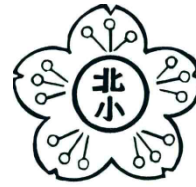


北小物語2018



平成30年11月 2日
平戸市立田平北小学校
学校便りNo. (57)
校長 曾川 和則

◇◇◇ 『いっしょ』『いっしょ』『いっしょ』 たゆみなく流れて清き「わが田平北小」 ◇◇◇

学校教育目標：「進んで学び、心豊かで、心身ともにたくましい児童の育成をめざす」

☆☆☆ 第57話：「見直そう！ココロねっこ運動～北っ子の輝く未来のために～」の巻 ☆☆☆



「千の倉より子は宝」ということわざがあります。子どもは世の中のどんな宝にも勝るとい意味です。平成13年度にスタートした「ココロねっこ運動」は、子どもたちの心の根っこを育てるために私たち大人のあり方を見直し、みんなで子どもを育てる長崎県の県民運動です。この運動が始まった背景には、左記の4点が挙げられています。☆☆☆☆☆☆

- 1 子どもと真正面から向き合わない大人の増加
- 2 青少年問題の顕在化
- 3 青少年に悪影響を及ぼす有害情報の増加
- 4 完全学校週5日制の開始



これでいいのだろうか？

ここ最近のテレビのニュースでは、10月31日のハロウィンの様子を伝えていました。東京の

渋谷を中心とした場で繰り広げられた若者たちの行動です。その場の雰囲気の流れに流され、周囲の状況も顧

みず悪行に走る子どもたち。軽トラックは横転させられ、酒に溺れ、警察官と衝突する若者らの映像が何度も何度も流れました。「果たして、これでいいのでしょうか？」
悲しい話ばかりではありません。救いは、ハロウィンの翌日、渋谷の街のゴミを拾い

集める若者がいたことです。しかし、渋谷区長は、我が街を守るために立ち上がり、「悪しきハロウィンはこの街から排除する」と言っています。経済効果よりも街や区民の安全・安心を第一とする考えです。

私は思います。若者の悪行の背景には、私たち大人の責務が見え隠れしていると。この出来事は、今の我が国の青少年問題を象徴するものであり、「対岸の火事」ではないのです。本校の子どもたち、田平地区の子どもたちを見つめたとき、やはり、大人の力や見守りが必要であることを切に感じています。

1日（木）少年の日。田平町青少年健全育成会や民生委員を中心に地区の大人たちが一堂に集い、ココロねっこ運動の普及・啓発を図る街頭パレードを実施しました。今朝も子どもたちは、多くの大人に見守られ、安全・安心に学校に来ることができました。家庭にとって、学校にとって、また、社会にとって、まさに子どもたちは未来を担う大切な宝です。しっかり子どもと向き合う大人でありたいものです。



民生委員さんに守られ、登校する子どもたち

